巻頭言

「摂南大学看護学研究」の発展を期待して

「摂南大学看護学研究」は、摂南大学看護学部の設置に伴い、教員の研究成果を公表することを主要な目的に発行して、2013年３月の第１巻から、現在までに４巻を重ねてきました。毎年１回の発行ですが、教員の研究論文を掲載して、その研究活動の成果を示すことができています。

看護学は最近、学問としても特に著しい発展を遂げてきています。研究者や教育者の育成は、専門とする学問分野での大学院教育にその役割が求められます。昭和年代ではわずか４大学に設置されていたにすぎない看護系大学院は、平成28年４月には、修士課程（博士前期課程を含む）164大学院185専攻、博士課程は94大学院に急増しています。看護系大学院が増加することにより、看護学の専門分野での研究成果が蓄積され、エビデンスに基づいた看護実践へと発展する可能性が大きく期待されています。このように、看護学が、人々の健康やQOLの向上にむけ、広く社会に寄与できる素地は整いつつあります。

摂南大学においても、摂南大学大学院看護学研究科を平成28年４月に設置しました。この年は、看護学部第１期生が卒業した年でもあります。看護学研究科は、研究能力をもった臨床での看護実践者および大学における看護学教育者を育成することを目的としています。すなわち、看護実践者が、看護の実践の場でもつ研究疑問をもとに、研究課題として科学的方法を用いて研究し、その成果を臨床の場に還元することができる看護実践者の育成です。看護学教育者は、研究能力を基盤とし、看護学教育に携わる教育者を育成することです。看護学研究科の大学院生は平成28年４月から在籍し、現在、研究や勉学を進めています。

この度、「摂南大学看護学研究」では、看護学研究科の大学院生の研究活動も掲載するように、投稿規定を改正しました。研究活動はプロセスも大切ですが、研究成果を社会に公表することも重要なことです。社会から研究に対する評価を受けることによって、研究は更なる発展が期待出来ます。特に、研究者は、研究成果を正しく社会に公表する責任と義務を有します。公表することによって、研究成果を社会に還元することになります。

大学院生の皆様が、研究科在学中や修了後も含めて、「摂南大学看護学研究」を、研究成果を公表する機会として活用していただきたいと願っています。そして、看護学の発展と研究の更なる推進に向け、活躍されることを祈念します。

平成29年２月

看護学部長・看護学研究科長　後閑容子